

隠岐魅力UP

目指せ！世界ジオパーク

しゃもじを打ち鳴らす隠岐民謡といえ、海士発祥のキンニャモニャ。今年も8月25日に「第17回キンニャモニャ祭り」が盛大に開催され、島内外合わせて1000人以上がパレードに参加しました。この「キンニャモニャ」という言葉、聞きなれた私たち島民でも、その名の意味や由来を尋ねられたら正確には答えられません。それでも、キンニャモニャは「島の常識」。幼児からお年寄りまで島民ならほぼ全員が踊れます。

通説では、明治10(1877)年の西南戦争に従軍した菱浦出身の杉山松太郎さんの熊本民謡「キンニョムニョ」を覚えて帰り、自己流にアレンジして宴会などで踊っていた。人気を博して受け継がれ、北前船の往来により文化的交流が進む中で少しずつ変化し、いつの間にか海士独自の唄や踊りとなって定着した——という事になっています。

沖繩(八重山)にも出だしがそっくりな民謡があり、新潟(佐渡)には「キンニョモニョ」、さらに長野(長谷村)には「キンニョニョニョ」という唄が残

すつきり ワイドに きよらっ3ページ

軽快に「キンニャモニャ」



多くの人々が参加したキンニャモニャ祭り—海士町提供

っていたりと、ルーツを匂わせる断片は各地に点在。それらとの関係性を証明することは難しいようです。現在の海士のキンニャ

モニャが、島外からもたらされるさまざまな要素をオープンに取り入れながら、日々の暮らしの中で練り上げられていったということ

は間違いなさそうです。軽快なしゃもじの音や愉快な所作は、陽気な島民性にピッタリ。そしてその歌詞がまたイイ。元気によく働きよく遊ぶ、明るく前向きな気質。人情や恋心、自然の恵みの豊かさがなどがめいっばい織り込まれ、なんと20番以上もあります。

♪世にもめずらし(キンニャモニャ)

唄えや踊れ 苦勞忘れ
て(キンニャモニャ)

酔うほどに(キクラゲ)

チャカポンもってこいよ

これらを古くから歌い継いで来た海士人たちが、心豊かな島の日常をいかに愛していたか。改めて歌詞をじっくり読むと、そのこと

に気付かされます。

キンニャモニャは、それ自身が交流を生むパワーを持っています。海士町最大のイベント「キンニャモニャ祭り」だけでなく、小さな催しや同窓会、旅先での宴会や結婚式でも、この唄が流れたら世代を超えて皆が踊りだす。知らない人も気軽にその輪に入ることができる。そんな体験がきっかけになって海士ファンになってくださる方も多いです。

海士の風土が生んだ、島の良さをまるごと謳歌する民謡、キンニャモニャ。これからも愛され、踊り継がれていくはず。

(海士町役場総務課情報政策係 岡本真里菜)